

## 環境保全公社と 生物多様性協定

府・京都市など締結



京都府や京都市などは14日、生物多様性の保全活動に取り組む市民団体を企業が支援する「きょうと生物多様性パートナーシップ協定」を、産業廃棄物処理業の京都環境保全公社(伏見区)と結んだ。祇園祭の厄よけちまきなどに使われたチマキザサ再生に向けた活動を支援す

る。同制度は昨年9月に創設された。府と市が共同設置した「きょうと生物多様性センター」などが資金難や人材不足に悩む環境保全団体と企業をマッチングし、企業が必要な資金や人材を支援する仕組み。協定締結は2例目。

京都環境保全公社は焼却処理施設の熱で発電した電力の一部(本年度は184万5千円)を、左京区の住民らでつくる「チマキザサ再生委員会」や京丹波町の団体に資金提供する。チマキザサはシカの食害などで絶滅の危機にあるため、生育環境の整備を支援する。来年度以降も寄付を続ける意向という。

市役所で行われた締結式では、同社の鍋谷剛社長、同センター運営協議会の湯本貴和会長、西脇隆俊知事、松井孝治市長が協定書を交わした。(小野俊介)

生物多様性の保全に向けた協定書を交わす関係者＝京都市役所